

薬学共用試験 (CBT)

昭和大学薬学部CBT委員会

薬学共用試験CBTとは何か

CBT=Computer Based Testing の略

OSCEと共に、6年制薬学部では必修の試験

4年後期に実施され、合格しないと実務実習が受けられない

薬学生として**最低限必要な専門的知識**、および実務実習に出る前に**最低限必要な知識**を問う。

医学部、歯学部では既に必修試験となっている。

CBTの特徴

- (1) **多肢選択試験形式**での客観試験。
- (2) **試験は3ゾーン**。受験生はすべて受験必須。
- (3) 薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠。
- (4) 学生ごとに**異なった問題をランダム**に出題するが、全体の難易度は統一する。
- (5) 一ヶ月以上の特別な準備学習をしなくても合格基準に到達できるような問題が出題。
- (6) 試験問題の配信、成績の集計等は、共用試験センターが用意するコンピューターシステムを用いる。

CBTに出題される問題の作成

国公立大学薬学部72校、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会が問題作成に参加し、**各大学が100題以上**の問題を作成

(全国の薬学部教員1200名以上が参加)

各大学から計200名の審査委員が選出され、問題の適否を審査し、6ヶ月かけて審査。現時点での蓄えられている問題数は**約8600題**。

出題分野ごとの問題数(全310題)

1	A ヒューマニズム B イントロダクション	10題
2	C1 - C3 物理系薬学	30題
3	C4 - C7 化学系薬学	40題
4	C8 - C10 生物系薬学	35題
5	C11, C12 健康と環境	40題
6	C13, C14 薬と疾病(薬理系)	55題
7	C13, C16, C17 薬と疾病(薬剤系)	35題
8	C15 薬と疾病(情報系)	15題
9	C18 薬学と社会	20題
10	D1 事前実習	30題

試験のタイムテーブル

- 9時集合
- 9時～9時半 ソフトウェアの使い方
- 9時半試験開始
- 各ゾーン2時間
- ゾーン1「物理・化学・生物」 105問
- ゾーン2「薬理、薬剤、情報」 105問
- ゾーン3「衛生、法規、情報、社会薬学、事前実習、ヒューマニズム、」 100問

詳しくは薬学共用試験センターへ (<http://www.phcat.or.jp/>)